

スコーレ・マスターズ通信

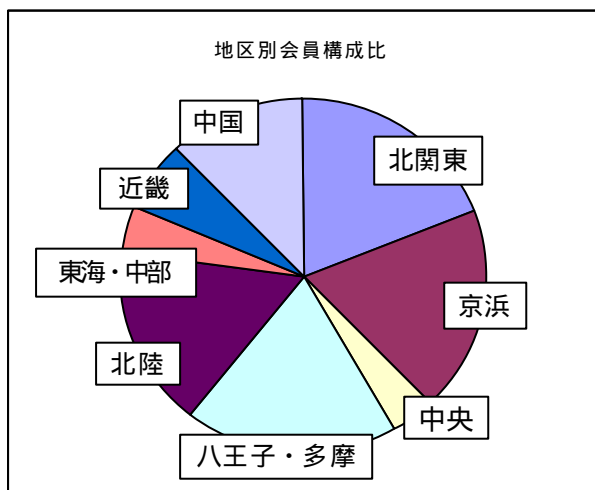
第3号
平成16年4月1日

特集号 会員アンケート 調査結果

マスターズ会員対象に11月30日締切りで行ったアンケートへの回答、要望についてはスコーレ・マスターズ通信第2号で概要を報告しました。その後、詳細を金井企画委員が分析し、報告書に仕上げ、地区リーダー並びに本部・全国主幹等の関係先へ配布いたしました。
本号では、「会員アンケート調査結果報告書」の主要部分と今後の指針となるべき項目をまとめて掲載いたします。

会員状況

調査当時の会員数は178名で、地域的分布は、下掲円グラフが示すように北関東、京浜、八王子・多摩、北陸が拮抗した人数となっています。



会員プロフィール

会員の年代別構成は、職業人として働き盛りの40代が32%を占め、家計支出が多く、転職、出向などを抱える50代、第二の人生構築の60代が共に24%を構成しており、この三世代が全体の80%を占めている。

職業別分布を見ると、サラリーマン(会社員+役員+公務員)は過半数の51%を占めており、次に自営業が19%を

年齢構成		職業構成	
30代まで	9%	会社員	39%
40代	32%	会社役員	7%
50代	24%	自営	19%
60代	24%	公務員	5%
70代以上	10%	無職	13%
回答なし	1%	その他	5%
		回答なし	12%

占め、残り30%はリタイヤ組と不定期就労組と見られる。

会員の地域分布、年齢構成、職業構成からマスターズ活動に必要な視点を、職業人として中核を担う40才代への支援、人生のターニングポイントを迎える50才代への助言をキーワードとして、より実のある、実効性あるものにする必要がある。

マスターズへ入会した動機(複数回答)

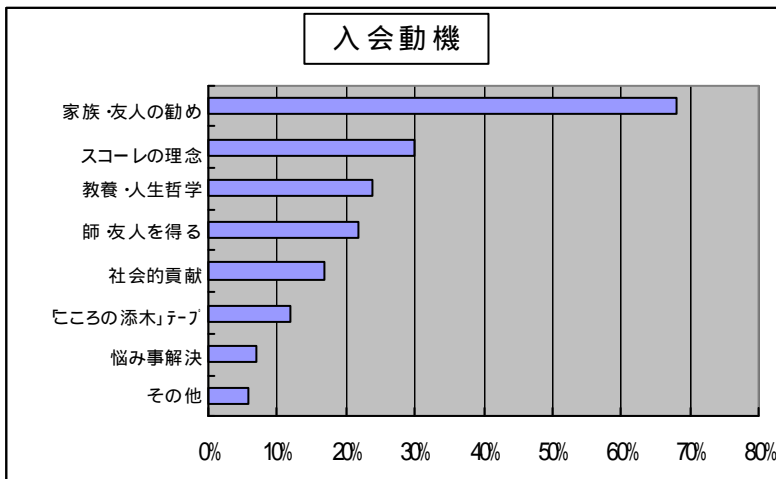
入会動機のトップは「家族(妻・両親)・友人等に勧められて」が68%であった。

これはある程度予想された答えでもあるが、中身は二つの側面を持つと思われる。

一つは、新生マスターズ誕生の担い手となった会員自ら、新入会員獲得のため各地区で精力的な加入促進運動をしたこと。

もう一つの側面は、スコーレの母体を構成する婦人層の実質的な支援活動があったことであるが、寄与度から言えば婦人層のバックアップが大きかったと思われる。

今後の組織強化に当たっては、「活動としての質」「組織としての量」両面での自助努力が



必要なことは言うまでもない。

実質的な入会動機を作る要素が、「スコールの理念に共鳴できるから」～「悩み事を解決したいから」の回答である。

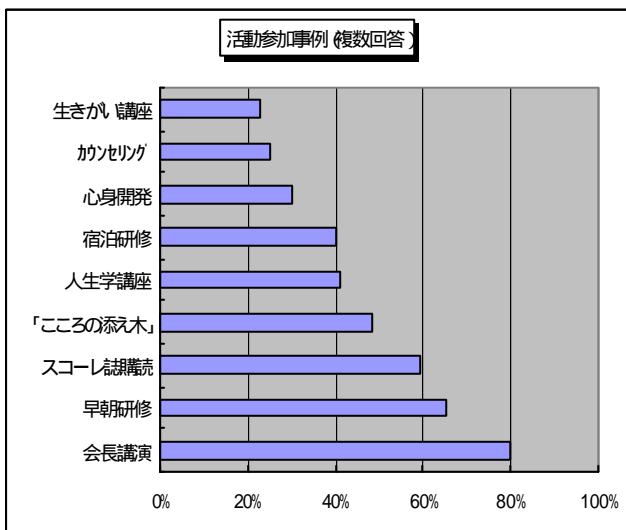
「会社型人間からの脱却」、「男女共同参画」が言われ、男性の生き方、価値観が問われる中、しっかりとした人生哲学を持ち、これを実践する場として、これらの回答項目に即した具体的に対応できる複数の場の提供が是非必要である。

スコール活動又は、マスターズ活動への参加状況

スコールでの活動経験の有無については、「経験なし」が25%、何らかの活動体験のある方が72%を占めた。

活動参加歴		
経験なし		25%
経験あり	1年未満	10%
	5年以下	34%
	10年以下	13%
	10年超	15%
無回答		4%

活動体験のある方を100とすると、経験年数5年以下が61%となり、6年以上39%であった。その意味でもマスターズは若い組織と言える。



活動参加事例をみると、活動体験のある会員が学習の場として基本的に位置付けているのが、「会長の講演・講話」であり、80%を占めていた。これは当然の結果と受け止められる。

その他「早朝研修」、「すこーれ誌購読」もうなずける回答であり、原点がスコール活動を母体としていることを示している。

反面、本来のマスターズ活動分野である「人生学講座」、「宿泊研修」などの項目が40%以下であり、これらの活動項目を全国ベースで

展開する事の難しさを表している。将来的には、全会員に対して訴求力ある活動が出来るよう人的、内容的な充実を図る必要性を示唆している。

マスターズの入会案内の認知度

2003年5月に新入会員向け勧誘ツールとして作成されたパンフレットの「入会案内」は、スコール組織として初の企画であり、マスターズのオリジナリティを表現した集大成である。

その認知度を測る意味での質問項目であるが、パンフレットを「見たことがある」は68%で

回答項目	回答数
見たことない	30%
見たことある	68%
無回答	2%

「見たことがない」は30%であった。スコール・マスターズの会員拡大の為に積極的配布が望まれる。

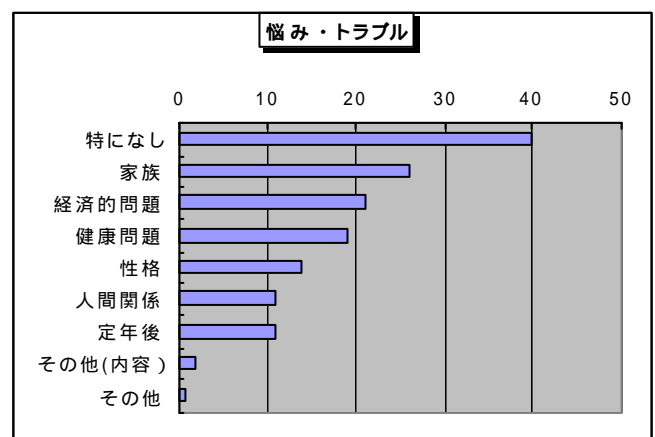
あなたは、現在、悩み・トラブルがありますか？

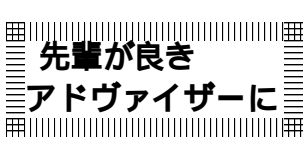
回答者のうち40%が、現状「悩み・トラブル」はなしと答えている。

残り60%は、一つ乃至複数の項目について問題を抱えている。

「悩み・トラブル」の要因として挙げた方の40%を占めたのが「家族の問題」で、3割の方が「経済的問題(家計)」と「健康問題」を上位に選択している。

これを年代別に捉えると次の特徴が出てくる。30～40才の層は、働く世代であって、悩み大きい世代である。悩みトラブルがないとするのが33%いるが、「家族」と「経済的問題」で各29%、「自己の性格・性向」で24%が続き、更に将来の定年後までが心配のタネといった多面的な様相がある。





先輩が良き
アドバイザーに
50才代の層では、家
族・家計が上位になるが、
65才年金支給を考えると「定年後の人生設計」
が17%と低いのはやや意外な感じがする。

60才以上の層になってくると、自己を取り
巻く環境整備が進み、二人に一人は現在「悩み・
トラブルなし」と回答している。

ここから、人生の先達がより若い人たちにス
コレ・マスターズの基本に立った適切な助言
と、指針を示すことが出来れば私たちの活動の
理念にかなうものとなる。

あなたにとって、今、重要な関心事は何
ですか？

「今、重要な関心事」についての回答上位は、
「家庭・家族等」59% 「仕事」46%
「健康」42%の順であった。

男性にとって身近な環境を考えると、やはり
まず「自分と家族」が最大の関心事となる。

更に、年代層で抽出すると、その関心事も良
くその特徴が現れてくる。

回答項目	30 代迄	40 才代	50 才代	60 才代	70 才以上
仕事	56%	64%	42%	33%	20%
家庭・家族	78%	79%	42%	63%	20%
健康	33%	42%	33%	42%	60%
趣味・娯楽	33%	15%	8%	25%	10%
人間関係	44%	12%	4%	13%	10%
社会秩序等	22%	21%	25%	33%	40%
自己の向上	67%	33%	21%	42%	10%
教育問題	11%	18%	25%	25%	50%
社会貢献	0%	9%	8%	33%	10%
日本経済の行方	22%	18%	17%	38%	40%
環境問題	0%	15%	13%	25%	10%
その他	0%	3%	0%	0%	10%

すなわち、30～40才代では「家庭を築き、
仕事の中心的役割」の担い手として「家庭・仕
事」が最重要であり、この回答数は他の年代よ
り突出して高い。又、30代で「自己の向上」
が高順位なのも頷ける傾向である。

一方50～60才代になると、「家族」がトッ
プを占め、子供の進路・教育費・独立へ向けて
の関心事が高まる環境を物語っている。

しかし、関心事は若年世代に比べ分散化を見

せ、50代の2位が「仕事」に対して、60才
の二番手は「健康」「自己向上」となっている。
これも、50と60才の年代差イコール環境変
化を表した傾向と判断される。

標本数は少ないが、年代を重ねるごとに、関
心事は「身近な事象からより社会的事象に」シ
フトすることがデータからうかがえる。

日本の将来・あなたの将来のイメージ

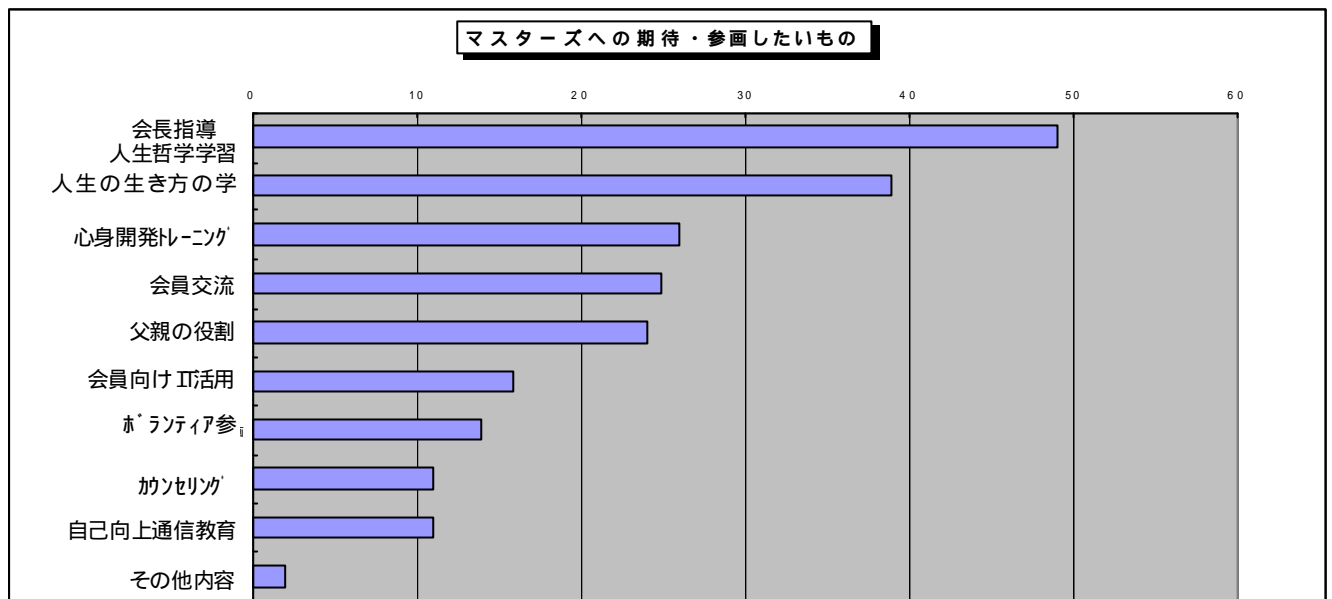
まず、「日本の将来」に関するイメージである
が、「まあまあ」が45%と約半数を占めた。
次に「やや暗い」が22%、「やや明るい」が
14%であった。

これを「明るさ度・DI指数」で表現すると、
指数48となり50を若干下回るので、天気で
表現すれば「曇り
空」となる。

更に年代別に見
ると、30～40
才代は「明るい」
と「暗い」の傾向
値がそれぞれ高まっ
ている特長がある。
一方、50才代のみ
「やや暗い」と
する面が強く出て
いる。

次に、「自分の
将来」についての
明るさ度は如何な
ものかを見ると、
「まあまあ」とす
るものが44%の
ウエイトであった
が、第二位「やや
明るい」24%
第三位「明るい」
が20%と、明る
さ度はDI値では
66に跳ね上がる。
天気で言えば「快晴」では
ないが「晴れ」と判定される。
年代別でみれば、
30～40代で「明るい+やや明るい」が55%
と過半を占めており、日本の将来をやや暗く
評価した50代でも「やや明るい以上」が42%
と、自分の将来に対しては、前向きなイメージ
を持っている。

全世代	自分の 将来	日本の 将来
明るい	20%	11%
やや明るい	24%	14%
まあまあ	44%	45%
やや暗い	9%	22%
暗い	1%	7%
30/40代		
明るい	24%	10%
やや明るい	31%	14%
まあまあ	38%	45%
やや暗い	7%	19%
暗い	0%	10%
50代		
明るい	13%	17%
やや明るい	29%	8%
まあまあ	25%	33%
やや暗い	25%	29%
暗い	4%	8%
60/70代		
明るい	21%	9%
やや明るい	12%	18%
まあまあ	67%	52%
やや暗い	0%	18%
暗い	0%	3%



マスターズ活動に期待・参画したいものは何ですか？

回答のトップは「会長の講話・著書・テープによる人生哲学の学習をしたい」であつた。これは場所、時間或いは集合、個人の別を問わない学習であつて勉学の中心軸として、会長がその師であることを物語っている。

次に講座として考えると、その中心は「人生学講座」「心身開発トレーニング」「父親講座」に対する要望が強いと言える。これらについては、次の「寄せられた要望・意見」の項を参考にしつつ、学習システムを充実させる必要がある。

会員の相互交流に対するニーズは、首都圏、地方を問わず高いが、交流の中身としては「学習」と「懇親」の両面に期待している。

地方会員からの要望の特徴を見ると、「会員交流」「IT活用」に加え、「カウンセリング」と「通信教育学習」に対するニーズが目立っている。

寄せられた要望・意見

自己発見の旅学習的男性版が欲しい
 マスターズ研修に演壇取り入れると良い
 各地域での父親講座の開催
 各地域での心身開発トレーニングの開催
 インターネット網、通信教育の構築を図る
 講師・トレーナーの養成が必要
 会員相互の意見発表の場が確保されると良い
 会員相互交流の場が欲しい
 メンタルケアを取り入れたトレーニングの開発
 会員増強が必要
 投稿型機関紙の作成

編集後記

今回のアンケートには沢山の示唆にとんだ内容がありました。また、貴重なご意見を多くの方々からいただきました。さらに、本通信の出来栄についても多くのご意見をいただきました。有難うございました。

寄せられたご意見、要望はスコール・マスターズのみならずスコール全体の真にユニークな活動の大きな指針になってゆくものと考えます。

皆様のご意見を取り入れた、新たな活動を、まだまだ人的制約が多いのですが、少しでも実現して行くではありませんか。(企画委員 岡本・栗山)



編集：社団法人スコール家庭教育振興協会
 スコール・マスターズ 広報委員会
 発行人：三橋克興

(k-mihasi@theia.ocn.ne.jp)

〒194-0013 東京都町田市原町田4-7-12

TEL042-728-7951 <http://www.schole.org>